

# 陸奥湾野辺地町でのアマモ場の保全と造成活動

## 野辺地町漁業協同組合 野辺地町 ハ戸工業大学

### プロジェクトの概要

#### 【フィールド：青森県 上北郡 野辺地(のへじ)町】

野辺地町は陸奥湾の最奥部、下北半島の付け根に位置し、青森県有数の海産物の宝庫として知られ、ホタテガイ、カニ、カレイやマダイなど多様な水産資源に恵まれている。

#### 【活動内容】

野辺地町漁協では、馬門地区(野辺地港以西沿岸)でのナマコ桁曳漁業を解禁日を除き禁止とし、その中でも離岸堤内側水面では全面禁漁としてアマモ場生態系を保全してきた。また、地球温暖化対策を考え、桁曳や刺網を営む小型船部会の漁業者が中心となって県、町、大学、研究機関や地域の企業と連携し、スゲアマモの種子採取や播種、栄養株移植に取り組むとともに、陸奥湾の各地に種子を供給しアマモ場づくりに貢献してきた。

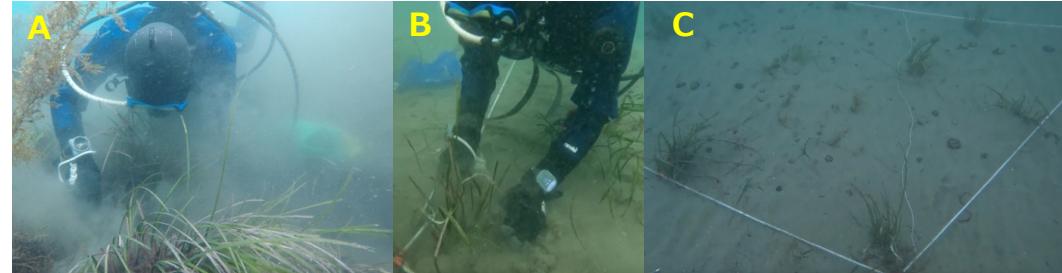
#### 【認証期間中(2024年5月から1年間)の成果】

漁業者ダイバーらの潜水調査によって、離岸堤内側の禁漁区には4.9927haの濃密なスゲアマモ群落(アマモ場)が観察された。禁漁区間近の桁曳漁場にはスゲアマモの小群落しかみられなかったことから、禁漁によってアマモ場が保全・造成されたことが確かめられた。一連の調査を通じて、26.3 CO<sub>2</sub>-トンのJブルークレジット<sup>®</sup>が認証された。

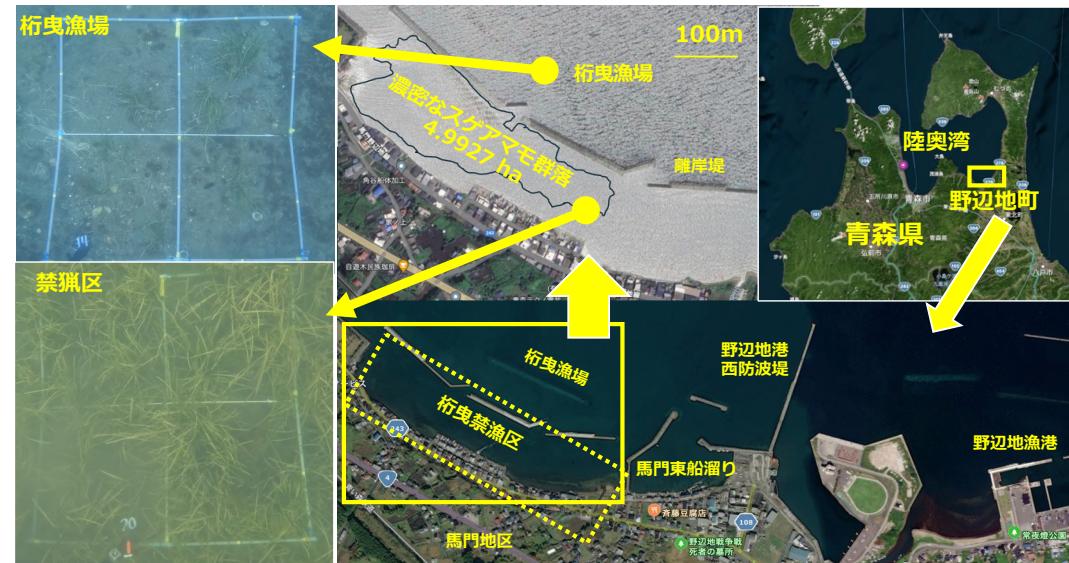
### プロジェクトの特徴・PRポイント

#### 【産官学が協働で取り組むアマモ場生態系の保全・造成と温暖化対策】

野辺地町では高水温による養殖ホタテの斃死被害が頻発している。海を守り豊かにし、おいしい海産物を全国の消費者に届けるため、漁業者、行政、大学、企業など地域が一体となって地球温暖化対策に取り組む。



野辺地町の漁業者ダイバーによるスゲアマモ栄養株の採取(A), 移植作業(B),移植後の様子 (C).



野辺地町馬門地区の禁漁区に形成されたアマモ場の様子.